

BLSP 座談会

実践力×英語力で可能性が広がる！

BLSPを志望したきっかけ

西岡先生：まず、皆さんがBLSPに参加したきっかけを教えてください。

原田さん：新入生のガイダンスでBLSPを知りました。中邑ゼミを選んだ理由は英語をしっかり学べると聞いていたからです。実は英語は苦手だったのですが、厳しい環境でない力がつかないと思って志望しました。

中村さん：私は高校生の時に関西大学のオープンキャンパスでBLSPを知り、海外に留学できる点に魅力を感じて関西大学を受験しました。ゼミはBLSPに所属している5つに絞り、2年生の時に英語に定評がある中邑ゼミに所属を決めました。

佐々木さん：私も高校生の時に、関西大学のパンフレットでBLSPを知りました。内容を詳しく知ったのは荒木ゼミに入った後でしたが、高校では理系だったので、文理融合プロジェクトにとても惹かれました。

西田さん：私も、高校の時にパンフレットを見たことがきっかけです。私はゼミありきでBLSPを志望したのですが、ゼミは一番頑張れそうだと感じた西岡ゼミを希望しました。

山本さん：BLSP自体は知っていましたが、詳しく調べたのは西岡ゼミに入ってからです。BLSPは英語が大変そうだと思いましたが、挑戦すれば自分が成長できると感じたので参加を決めました。

BLSPで学びのスタイルが変わった！

西岡先生：BLSPに参加する前と後で、学びの方法について変わったことはありますか。

山本さん：高校ではテストで得点するための知識を覚えるという感じでしたが、BLSPでは企業の課題研究や意見をまとめるなど、実践的な知識を覚えているという実感がありません。与えられた知識を覚えるのではなく、「どんな情報が必要か」というところから自分たちで考えるのはBLSPならではの学びだと思います。

西田さん：BLSPでは答えがないものに対してどうアプローチするかを、チームで考えなければいけません。それが高校や大学1、2年生までの勉強法とBLSPで大きく違う点だと感じます。

原田さん：確かにBLSPでは、必要な情報やデータを自ら取りに行くという積極的な姿勢が求められます。そこに難しさや試行錯誤はつきものですが、自ら学ぶ楽しさを実感できるのが素晴らしいですね。

中村さん：大学1、2年生の時はチームでの活動はほぼ意識しませんでした。BLSPでは同じ目標をもった人々と勉強することで良い刺激を受けたり、さらに上を目指したりして、仲間と共に向上できます。それもBLSPの良い点です。

佐々木さん：BLSPに入る前は、勉強はすなわちインプットすることでした。BLSPでインプットした知識をどう実践するかを学

英語に強いビジネスリーダーを目指すBLSP

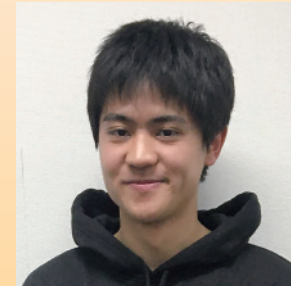
「ビジネスリーダー特別プログラム(Business Leader Special Program)」は、グローバルに活躍するプロアクティブ・リーダーの育成を目標とした関西大学商学部独自のプログラム。英語ワークショップやデータ収集・分析を行う「プロジェクト」、そして「ビジネス英語」のダブル・ゼミによるきめ細やかな指導が特徴です。西岡健一先生の司会で、BLSPを履修する中村菜さん、原田恵汰さん(共に中邑ゼミ)、佐々木綾香さん(荒木ゼミ)、西田乃音花さん、山本春太郎さん(共に西岡ゼミ)にお集まりいただき、BLSPでの取り組みや学びについて語っていただきました。



西岡 健一 (にしおかけんいち) 先生
商学部商学科 BLSPプロジェクト担当



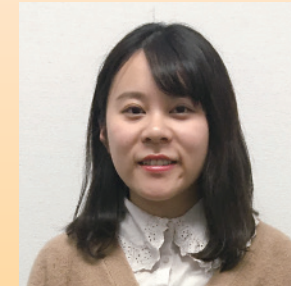
中村 菜 (なかもらしおり) さん



原田 恵汰 (はらだけいた) さん



佐々木 綾香 (ささきあやか) さん



西田 乃音花 (にしだのどか) さん



山本 春太郎 (やまもとしゅんたろう) さん

評価の高い「海外ワークショップ」

西岡先生：続いて、BLSPで最も印象的だったことを教えてください。

佐々木さん：BLSPとは少し違うのですが、2年生の時に参加した「AjiConi(堺市の複数の食品会社とコラボレーションするプロジェクト)で、課題解決に向けターゲット選定やニーズを考えつつ、理系の技術も取り入れるという方法がとても面白くて、すごく印象的でした。

山本さん：最も印象的だったのは、BLSPの活動の海外ワークショップでシンガポールに行ったことです。現地企業の課題について解決方法を考えるという取り組みで、私の班はグローバル決済の代行サービスをしている企業を担当しました。その企業が利益を上げる仕組みや、サービスが流行る理由など調べるうちに、知らなかった分野の知識とグローバルな視点を得ることができて、すごく勉強になりました。

西田さん：海外ワークショップでコンピューター関連企業の課題解決に取り組んだことです。扱った課題がデジタルディスラプションという難しいものだったのですが、英語を母語にしている方たちに対して、英語でプレゼンテーションできたことがすごく印象に残っています。

苦しさや辛さの先に喜びがある！

西岡先生：BLSPで大変だったことや苦労したことはありますか。

原田さん：授業の課題が多く、求められるレベルも高いことです。例えば私はパソコンを使ったデータ分析が苦手なのですが、絶対にやらなくてははいけません(笑)。もちろんプレゼンテーションも大変です。逆に言えば、それだけ力がつくということになりますけれど。

中村さん：答えが用意されていない問題に取り組むことです。ゼミの課題について皆でいろんな方法を吟味するのですが、結構な時間を使ったにも関わらず結論が出ない時は辛いですね。でもその辛さはやりがいにつながるもので、悪いこととは思いません。

佐々木さん：辛かったことは2つあります。1つめは文理融合プロジェクトを進める上で理系の技術を理解できず、アイデアがなかなか浮かばなかったこと。理系の技術を社会的にとらえ、市場的意味を考えるのはすごく難しいです。2つめは英語の授業についていくのが大変だったこと。でもBLSPに参加する前より英語に興味を持てるようになり、成績も上がりました。

山本さん：2年生の時のプレゼミでBLSPと似たプログラムをやったのですが、私がいた班はあまり結果が良くなかったんです。私はリーダーだったのですごく辛かったのですが、チームメンバーと協力合せてその辛さを乗り越えました。その経験が現在のゼミ活動に生きています。

西田さん：スケジュール管理が最も大変でした。私は春学期にビジネスコンテストに参加し、食品の製造企業とコラボレーションしてビジネスプランを考えましたが、自

この経験を通し、プレゼンテーションに自信を持てるようになりました。



分たちでゴールを設定してスケジュールを決め、モチベーションを保ちつつ管理していくことが難しかったです。対策として大ゴールを決めつつ、それを達成するためのステップとしてやるべきことを1日単位まで小分けにし、チームメンバーで共有しました。

チャレンジして得られた大切なもの

西岡先生：BLSPに参加して得たことや良かったことを教えてください。

西田さん：良かったのは論理的に考える能力が身についたことです。参加する前は物事を「何となく」決めがちでしたが、ゼミでは「なぜそう考えたか」を問われるので、常に論理的思考を意識するようになりました。

山本さん：私もチームメンバーとのディスカッションを通して、論理的に考えられるようになりました。またチームリーダーを務めるチャンス、さらに企業や社会と関わるチャンスなどを得られたのもBLSPの良い点です。そのチャンスを生かして様々な経験をする中で、論理的思考力やリーダーシップなどが養われていきます。

佐々木さん：何かを提案する時には根拠が必須だと学びました。根拠なしに自分たちの提案したもの良さを伝えるのはほぼ不可能ですから、企業に対して「私たちが提案したプランは実現性が高いです、その根拠はこれです」

と言えなければなりません。

中村さん：得たものは英語を話す環境です。英語への苦手意識に苦しんでいた私に、BLSPは海外ワークショップをはじめ英語を聞く・話す機会をたくさん与えてくれました。さらに英語の効果的な勉強法をゼミで学んでいることも今後生きてくると思います。

原田さん：自分の意見を伝え、発表する力が以前より身につきました。BLSPでは自分の考えを伝える経験が数多くできたので、すごく良かったと思います。

プログラムを通して成長を実感

西岡先生：BLSPに参加する前と比べて、今の自分をどう思いますか。

山本さん：入学した当初はもっと力をつけたい、周りに認められたいという思いが強かったのですが、思いと行動を一致させられずモヤモヤしていました。その頃と西岡ゼミで様々な体験をした現在を比べると、少しは成長したかなと思います。例えば自分がやりたかったこと、やるべきことに向き合い、実際に行動に移せている点は以前より進歩していると思います。

西田さん：プレゼミに入る前は、自分の意見を言うことやプレゼンテーションに対してすごく苦手意識がありました。でも現在は人前で自分の意見を伝えられるようになり、成長したと思います。

原田さん：私も人前で話すことが得意ではなかったのですが、BLSPでたくさん発表する経験をして、自信を持って自



分の意見を伝えることができるようになりました。BLSPはそんな機会が多い上に先生方から丁寧にアドバイスをしていたので、自己表現やプレゼンテーション上達には理想的な環境です。

中村さん：失敗を恐れなくなりました。昔は発音や文法が正しいかどうか気になってなかなか英語が話せなかったのですが、BLSPに入ったことをきっかけにスピーキングにもどんどんチャレンジするようになったので、そこが一番変わった点ですね。

佐々木さん：何事に対しても「まずやってみよう」と思えるようになりました。ゼミに入った直後は物事に取り組む前にしり込みしてしまったり、忙しくなると「大丈夫かな」と心配したりしていたのですが、何でも挑戦していくうちに自分のキャパシティが広がっていったんです。この経験を通して、心配するよりやってみることが大切だということに気づかされました。

後輩に伝えたいBLSPの魅力

西岡先生：後輩へのメッセージをお願いします。

中村さん：BLSPは海外ワークショップなどでも良い経験ができるので、興味がある人はぜひ参加してほしいと思います。また中邑ゼミは英語のレベルが高いのですが、先生はとても親切で多くの情報を教えてください。英語は苦手だけれどこれから頑張りたいという人にもお勧めです。

佐々木さん：高校生に向けてメッセージを送ります。私はすごく受験に苦労したのですが、私と同じことで悩んでいる受験生の方には「合格したらやってみよう」と思い浮かべて、もっとワクワクしてほしいです。そういう意味でBLSPはお勧めで、プログラムは楽しみたい、しんどい面もありますが成長する良い機会になります。そういうことをイメージしながら、勉強を頑張ってみてください。

山本さん：BLSPに参加して後悔することはありません。この経験を生かして、今後はどんな意見でもまず受け止め、メンバーのモチベーションを高い状態でキープできるリーダーになりたいと思います。

西岡先生：皆さん、BLSPを通して英語力やビジネスの知識はもちろん、自己表現のスキルやリーダーシップなどもっとか身につけて、大きく成長を尊重してもらって、自分から望めばいろいろな挑戦ができる場です。これから関西大学商学部に入ってくる人はゼミで様々なことにチャレンジ

し、自分の新たな一面を見つけてほしいと思います。

原田さん：勉強に楽しみを見出したいと思っている人こそ、BLSPに入ってほしいです。BLSPは海外ワークショップのようなイベントやクオリティの高い授業を通して、積極的に行動できる環境を与えられるので、少しでも成長したいと思っている人にはぴったりです。

これから目指すリーダー像

西岡先生：今後、目指すリーダー像を教えてください。

佐々木さん：プロジェクトでチームの士気が下がり、ぜんぜん物事が進まなかった経験から、雰囲気づくりの大切さを痛感しました。チームの意識が上がることで進み具合が本当に違っていました。強引に周りを引っ張っていくより、皆の意見を聞いて雰囲気を作りつつ、少しだけ先に立って進んでいけるリーダーになりたいです。

中村さん：私は中高大のクラブ活動、さらにゼミでもリーダー経験があるのですが、BLSPに入ってから改めて意見の伝え方を見直すようになりました。今後もしリーダーをやることで増えるのであれば、どう伝えたら皆がわかってくれるのかを考えて行動したいです。

原田さん：チームメンバー1人ひとりに積極的に関わっていくことで、それぞれの考え方をうまく融合し、隔たりのない環境を作っていくリーダーになりたいです。

西田さん：ゼミでの経験を通して、リーダーは信念やビジョンを持つべきだと感じました。さらにチームのモチベーションを高く保ち、人の意見をよく聞き取り、コミュニケーションスキルを身につけたいです。その2つを兼ね備えたリーダーになっていきたいですね。

山本さん：BLSPに入る前は少しひねくれているというか、人の意見に対して否定から入ってしまうところがありました。でもリーダーとして行動する中で、メンバーのモチベーションを上げていくことの重要性に気づきました。この経験を生かして、今後はどんな意見でもまず受け止め、メンバーのモチベーションを高い状態でキープできるリーダーになりたいと思います。

西岡先生：皆さん、BLSPを通して英語力やビジネスの知識はもちろん、自己表現のスキルやリーダーシップなどもっとか身につけて、大きく成長を尊重してもらって、自分から望めばいろいろな挑戦ができる場です。これから関西大学商学部に入ってくる人はゼミで様々なことにチャレンジ